

NEXT CONCERTS

》 次回東京定期演奏会

第 **778** 回

下野竜也が導く、
シベリウス第6番の神秘の自然美

サントリーホール

プレートク 下野 竜也氏

2026年 **3月13日(金)** 19:00開演 18:30~

3月14日(土) 14:00開演 13:20~

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

指揮: **下野 竜也**

ピアノ: **野田 清隆**

サミー・ムーサ: **エリジウム**

マイケル・ナイマン:

ピアノ協奏曲(『ピアノレッスン』より/1993)

シベリウス: 交響曲第6番 二短調 op.104



©Leonardo Bravo

1回券料金 S ¥9,000 A ¥7,500 B ¥6,500 C ¥5,500 P ¥5,000 Ys (25歳以下) ¥2,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

©山口 敦

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー！

下野 竜也 編

きき手 澤谷 夏樹

2026年3月の東京定期演奏会で下野竜也は、サミー・ムーサ(1984~)の《エリジウム》(2021)を取り上げて、同時代作品を大切にしたい創立指揮者・渡邊暁雄の理念にひとつの形を与える。

「テレビで放送していたティーレマンとウィーン・フィルによる初演を、出張先のホテルで観たのがこの作品との出会いです。初演地はサグラダ・ファミリア教会。空間が歪むような音だけどころか美しい和音、和声もある。これはなんだ、演奏してみたい、どうすればできるかなと思っていたら、広島交響楽団の素晴らしいライブラリアンの松田弘美さんが調べてくれて、ムーサと直接、連絡を取れるようになりました。この作品では異空間に放たれたような不思議な身体感覚を得ることができます。」

3月の東京定期では《エリジウム》にマイケル・ナイマンのピアノ協奏曲が続く。この作品は、1993年公開の映画『ピアノ・レッスン』に提供した音楽を作曲家自身が

編み直し、単一楽章のコンチェルトに仕立てたものだ。

「楽団事務局の企画担当者が提案してくれました。これを軸に前後のプログラムを決めました。協奏曲ではミニマル風や民謡風など、さまざまな楽想を楽しめます。こういう曲を演奏する際、個々の奏者が家でひとりで譜読みをしていると、これほどの苦痛はないという声もあがります(笑)ところが、集まって合わせてみると、紡ぎ出される音は心地よく、グルーヴ感のあるサウンドになる。こういう作品は人間がやってこそと思ってもらえたらすばらしい。クラシック音楽ファンの方々はもちろん、映画『ピアノ・レッスン』を懐かしく思い出すみなさんにも楽しんでいただきたいです。」

独奏者の野田清隆とはたびたび共演しているという。

「矢代秋雄や尾高惇忠らの協奏曲などをいっしょに演奏しました。実直でいつも成果を出してくれる。あれほどオーケストラのことを熟知したピアニストは貴重な存在ですよ。基本的なことを確認しあわなくとも、音楽がそもそも持っているよさや素晴らしさをスムーズに、ストレスなくいっしょに表現できます。」

シベリウスの交響曲第6番についてのコメントは、驚きの告白から始まった。

「シベリウスの交響曲を公開演奏会で指揮するのは、じつは初めてです。南国の生まれなので、自分が指揮しても寒い音が出ないと、半ば真面目に思っていました。」

あるとき『死ぬ間際に聴きたい音楽』というアンケートを見たところ、シベリウスの交響曲第6番の人气が高かった。そうなんだと思って聴いてみたら、ほんとうに佳い。ドリア調の不思議な感覚、張り詰めた感じ、この魅力いいね、と。

シベリウスをいちども指揮しないで死ぬのもどうかな。あんた、あんなに知らない曲ばかり取り上げているくせに、大切なレパートリーを振ってないじゃないかって自分自身で思って、シベリウスをやってみようと思ったんです。しかも日本フィルで、『渡邊暁雄・日本フィル・シベリウス』は金字塔。朽ちない伝統です。録音で聴いた渡邊さんのシベリウス第2番はとても温かかった。たとえば、咆哮しても音が割れない。そういう伝統を持っているオーケストラでシベリウスに挑みたい。」

シベリウスには交響曲が7つある。そのうち第6番を取り上げるのには理由がある。

「プログラムのその他の曲との組み合わせを考えたとき、第6番しかありませんでした。全体の時間は短めになりますが、そこに第7番を足すわけにはいきません。最初から最後までオーケストラの穏やかな響きのなかに身を置いて癒しの時を得る。静謐な森を歩いて、ついに誰とも会わなかったけれど、とても充実した時間を過ごせた、そんなことを全体として表現できればと考えています。」